様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｈ０２６７９

研究課題名（和文）戦後日本における政治家・財界人の教育観に関する教育社会学的研究

研究課題名（英文）Educational sociological study on the view of education of politicians and business people in postwar Japan

研究代表者
稲垣　恭子（INAGAKI, Kyoko）

京都大学・教育学研究科・名誉教授

研究者番号：４０１５９９３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　6,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、戦後日本の教育に影響力を持ってきた政治家、財界人に焦点をあて、各種審議会や自伝等の関連資料をもとに、その教育観の特徴や形成過程を明らかにすると同時に、それらと教育政策や教育改革との関係について、歴史的、社会的文脈を視野に入れて分析・考察した。そのなかで、(1)審議会等の委員の構成や担当期間、発言回数、内容の分析から、審議会の力学がある程度理解できること　(2)自らの受けた家庭教育、学校教育の影響が見られること　(3)政治家、財界人、文化人において、それぞれ教育観、学問観に共通性と違いがあること　などを具体的に明らかにしたことが重要な成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
教育改革、教育政策の作成過程における政治家、財界人の教育観・学問観の影響は近年ますます大きくなりつつある。本研究は、(1)教育界、政治界、財界等の力学を社会学的に分析・考察する新しい視点の提示　(2)審議会等委員のプロフィールをまとめた基礎的なデータベースの作成　(3)自伝や個人資料を用いた教育観・学問観の形成過程の分析と教育改革への影響を関連づける視点と分析 (4)文化人の影響力についての分析による今後の研究の視野の広がり等において、学術的意義を有している。また、近年の教育改革において、これがどのように展開、変容しているかを考察していく上での示唆を与える点で、社会的意義を有している。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on politicians and business leader who have been influential in postwar Japanese education, and tried to make clear how their views on education and academia were formed during their life and career through the analysis of the materials of the committee and their autobiography. Also, we analyzed the relationship with the educational policy and reform considering the historical and social context. The results are as follows: (1)Our analysis add the understanding of the dynamics of the decision making. (2)the database of the committee member profiles is important base for the study (3) the importance of the analysis of the relationship between the personal education and career and macro analysis of the education reform of post-war Japanese education field. (4) several case study of the people in culture will add the new development of our study. These findings reveal the importance of the understanding of the dynamics of the policy making in Japanese education.

研究分野：教育社会学

キーワード：財界人　教育観　ハビトゥス　教育社会学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本の教育においては、大学を含めて教育界の自律性が弱いことは、一般的な言説だけでなく学術研究においてもしばしば指摘されてきた。グローバル経済の進展とともに知のフラット化や流動化が加速していくなかで、大学を含むさまざまなレベルでの教育改革が行われるなか、経済界や政治界の影響が大きく反映されつつある。

教育政策、教育改革についての先行研究は数多くあるが、それらに影響を与えた政治家・財界人についての社会学的な研究は多くない。また、戦後日本の財界人の教育観・学問観については、先駆的研究として鳥羽（1970)、浜口（1996）などがあるが、教育政策や教育改革との関わりを含めて、社会学的視点から十分に解明されてはいない。

一方、研究代表者および研究分担者は、これまでそれぞれ異なった視点から、各界の指導的立場にある人物のライフヒストリーに焦点をあてた研究に取り組んできている。研究代表者は、『私の履歴書』（日本経済新聞社）に掲載されている財界、学問界、芸術・芸能界、政治界の指導的立場にある人物が家庭や学校のなかで形成してきた文化資本や、家族、親族、知人、教師、職場の上司、同僚などの関係のなかで培ってきた社会関係資本を分析し、各「界」指導者の特徴についての共同研究を行っている。それらの知見と成果を発展させ、より広い視野から考察することを目的に本共同研究に着手した。

２．研究の目的

本研究は、戦後日本の教育に重要な影響力をもってきた政治家、財界人に焦点をあて、その教育観の特徴や形成過程を明らかにすると同時に、教育政策や教育改革との関係について、歴史的、社会的文脈を視野に入れて考察することを目的としている。具体的には、教育経験や職業経験、さらに社会的指導者としてのポジションを通じてどのような教育観や学問観を形成してきたのか、またそれらが社会的な力をもつ言説として教育政策や教育改革にどのような影響力をもつことになった（あるいはもたなかった）のかについて、社会学的な視点から分析することによって、日本の教育を構成してきた力学の一端を明らかにしようとするものである。

３．研究の方法

研究の理論的な枠組としては、ブルデューによる一連の研究（『国家貴族』『ホモ・アカデミクス』『科学の科学』)、及びそれに依拠した実証的研究（Benson,R & Neveu,E.,2005、Furedi,F.,2004 等）を参照しつつ分析の視点と方法を設定する。とくに、政治界、社会科学界、ジャーナリズム界を射程に入れた R.ベンソンらによる研究は、本研究の理論的、方法論的な基盤として検討した。

政治家・財界人の教育観・学問観が形成される過程やその社会的ポジションを通した読み替え（ポジション効果)、それらが言説として教育政策・教育改革に及ぼしてきた影響について、以下のような観点からアプローチした。

(1)データベース作成と全体分析：政治家・財界人のなかで戦後の教育に発言力、影響力を持った人物について、データベースを作成して分析・考察し、その特徴や時系列的な変化について考察した。

(2)教育観の特徴と形成過程の分析：政治家、財界人の教育観がどのように形成されていくのか、それぞれのライフヒストリーにおける教育経験や職業経験によるハビトゥス形成過程、さらにそれが社会的ポジションを通じて読み替えられ、言説として社会的な力をもつ過程の分析・考察を通して明らかにした。

(3) 教育政策・教育改革との関係の分析：上記(1)(2)の分析をもとにしながら、政治家、財界人の教育観が教育政策や教育改革に与えてきた影響やその力関係について明らかにする。

(4)これらの分析から、教育(界)に対する政治家・財界人の位置やその機能という視点から総合的に考察した。

３．研究成果

本研究では、上記の研究方法にしたがって、戦後日本の教育政策や教育改革に影響を与えた政治家、財界人の教育観・学問観の形成過程とその影響について分析・考察を行った。その主な知見と成果は以下のようにまとめられる。

(1) 政治家、財界人のなかで、戦後日本の教育に影響力を持った人物について、中央審議会、臨時教育審議会等の委員経験者、日経連、産業競争力会議等の中から、本研究で対象とする委員会を選定し、それぞれ委員会委員のプロフィールをまとめ、データベースを作成した。（太田、濱）

(2) 中央教育審議会の速記録・議事録を用いて、委員会になった政治家、財界人の発言回数、内容とその変化についての分析を行い、教育観、学校観の分析と知見をまとめた。

(3) 政治家については、戦後日本の教育に影響力を持った人物として、森戸辰男、瀬尾弘吉、坂田道太を取り上げ、それぞれ「私の履歴書」（日本経済新聞掲載）に書かれた内容を中心に関連資料も含めて読み込み、経歴と教育観についてまとめた。また、財界人で教育者であった有田一寿の自伝、教育論についての分析と考察を行った。（竹内、稲垣）

(4) 経済人については、「私の履歴書　経済人」（日本経済新聞社）シリーズに所収されている大正期生まれの著者６０名について、家庭教育と学校教育への言及箇所への検討を行い、旧中間層では学校教育に「地位表示」機能を、新中間層では「地位形成機能」を求めている点や、新中間層かを問わず、母親よりも父親による家庭教育への言及が多い点が明らかになった。（多賀）

文化人については、教育関係の審議会委員を歴任している作家である三浦朱門とその

綾子を取り上げ検討した。三浦については、ゆとり教育の実施を答申した教育課程審議会で会長を務めたこと、曽野については道徳の教科化の先鞭をつけた教育改革国民会議の第一分科会の答申案の文責者となっていることから、その内容を検討し、その教育観や影響力について、文壇におけるポジションと関連づけて考察した。（目黒）
また、「私の履歴書」に掲載された美術家の輩出過程と美術教育観の形成についての分析と考察を行った。（多賀）

(5) 以上の知見をまとめ総合的な考察を行い、現在進んでいる教育改革への示唆についても議論を行った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計17件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 目黒強	４．巻 33号
２．論文標題 「大正期における通俗教育にみる課外読み物の統制」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』	６．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹内洋	４．巻 第25巻
２．論文標題 近代日本の来歴と令和の日本	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『人間情報学研究』	６．最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 稲垣恭子	４．巻 -
２．論文標題 「ミッション系女学校の教養文化」（講演録）	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『宮城学院資料室年報2018年度』第24号、宮城学院資料室、2019年3月	６．最初と最後の頁 9-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 稲垣恭子	４．巻 -
２．論文標題 「教養・ジェンダー・教養教育」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『第66回中国・四国地区大学教育研究会報告書』（講演記録）	６．最初と最後の頁 5-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 濱貴子	４．巻 69(3)
２．論文標題 「戦前期『主婦之友』における職業婦人イメージの形成と変容 ――「職業婦人」と「主婦」イメージの接続――」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『社会学評論』	６．最初と最後の頁 320-337
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹内洋	４．巻 610
２．論文標題 教養の構造転換	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『ＩＤＥ　現代の高等教育』　２０１９年５月号	６．最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 稲垣恭子	４．巻
２．論文標題 「男女別学の時代と女学校文化」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『京都市学校歴史博物館研究紀要』第6号	６．最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 稲垣恭子	４．巻
２．論文標題 「文化としての『師』の存在に学ぶ」（百花繚乱　エネルギーに一言）	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『エネルギーレビュー』2017年10月号	６．最初と最後の頁 53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 目黒強	4．巻
2．論文標題 「明治後半期における文士の社会的地位をめぐるポリティクス－巖谷小波　の文士優遇論に着目して－」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』31号　2018 年3月	6．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 多賀太	4．巻
2．論文標題 「男性労働に関する社会意識の持続と変容―サラリーマン的働き方の標準性をめぐって ―」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『日本労働研究雑誌』No.699	6．最初と最後の頁 4-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 太田拓紀	4．巻
2．論文標題 「戦後初期教育運動における教育知識人の変容過程」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『滋賀大　学教育学部紀要』第67号	6．最初と最後の頁 53-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 太田拓紀	4．巻
2．論文標題 「明治後期中学校における学校紛擾と学校文化の変容」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 社会学　研究会編『ソシオロジ』第63巻第 2号	6．最初と最後の頁 43-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 目黒強	４．巻
２．論文標題 「阿川佐和子訳『ウィニー・ザ・プー』と教養主義的読書観－石井桃子を　手がかりとして－」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『ユリイカ』　51巻1号、2019年1月	６．最初と最後の頁 191-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 太田拓紀	４．巻
２．論文標題 「戦後初期日教組教育運動における知識人の指導的役割」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『滋賀大学教育学部紀要』第68号	６．最初と最後の頁 129-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹内洋	４．巻 621
２．論文標題 「大学生と読書」、頁。	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『ＩＤＥ　現代の高等教育』２０２０年６月号	６．最初と最後の頁 １０－１４
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 多賀太	４．巻 71
２．論文標題 「近代日本における女性エリートの輩出過程に関する考察－「私の履歴書」執筆者の事例から－」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『関西大学文学論集』71巻4号，2022年3月，p.171-197（査読無）	６．最初と最後の頁 171-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 太田拓紀	４．巻 第4号
２．論文標題 「教員養成を阻害する要因としての学校経験」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『滋賀大学教育実践研究論集』第4号，pp.	６．最初と最後の頁 167-173.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 多賀太
２．発表標題 「近代日本の美術家輩出過程に関する考察－自叙伝を手がかりに」
３．学会等名 日本教育社会学第71回大会，2020年9月5日，オンライン.
４．発表年 2020年

１．発表者名 稲垣恭子
２．発表標題 「グローバル化する社会とナショナリズムの現在（Current Globalized Society and Nationalism）」（パネリスト）
３．学会等名 京都大学大学院教育社会学講座主催、京都大学教育学部　2019年２月16日
４．発表年 2019年

１．発表者名 濱貴子
２．発表標題 「戦前期婦人雑誌のなかの「職業婦人」：『主婦之友』，『婦人倶楽部』，『婦人公論』の比較から(一般研究報告(1)　性・ジェンダー(1))」
３．学会等名 第91回日本社会学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 多賀太
２．発表標題 「男性学・男性性研究の視点と実践的意義」
３．学会等名 国際ジェンダー学会2018年大会シンポジウ ム基調講演，聖心女子大学　2018年9月2日（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 多賀太
２．発表標題 「近代日本における家族の教育戦略に関する考察－大正期生まれの文化人を中心に－」
３．学会等名 日本教育社会学第71回大会，2019年9月13日，大正大学
４．発表年 2019年

１．発表者名 多賀太
２．発表標題 「日本における父親の家庭教育－文化人の自叙伝を手掛かりに－」
３．学会等名 東アジア日本研究者協議会第四回国際学術大会，2019年11月3日，台湾 台北市 国立台湾大学（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 稲垣恭子
２．発表標題 「男子の教養、女子の教養―旧制高校と女学校―」（基調講演）
３．学会等名 旧制高等学校記念館　第22回夏期教育セミナー、旧制高等学校記念館、2017年8月19日
４．発表年 2017年

１．発表者名 稲垣恭子
２．発表標題 「教養・ジェンダー・教養教育」（基調講演）
３．学会等名 第66回中国・四国地区大学教育研究会、鳥取大学鳥取キャンパス、2018年6月２日
４．発表年 2018年

１．発表者名 多賀太
２．発表標題 「近代日本の文化人にとっての家庭教育と学校教育に関する基礎的考察―「私の履歴書」からの抽出事例をもとに―」，2018年11月24日，関西大学
３．学会等名 関西大学教育学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 濱 貴子
２．発表標題 「奥むめおの婦人運動における組織マネジメント戦略――「才媛」の歴史社会学へ向けて」、テーマセッション：「歴史社会学」の諸実践と理論的・方法的反省）、2021年11月13日
３．学会等名 第94回日本社会学会大会（於オンライン開催〔東京都立大学〕
４．発表年 2021年

１．発表者名 多賀太
２．発表標題 「近代日本における女性文化人の輩出過程に関する考察－「私の履歴書」執筆者の事例から－」
３．学会等名 日本教育社会学第72回大会，2021年9月11日，オンライン
４．発表年 2021年

〔図書〕　計11件

1．著者名 文春新書編	4．発行年 2020年
2．出版社 文藝春秋	5．総ページ数 304（234-246）
3．書名 昭和史がわかるブックガイド　分担執筆竹内洋「昭和エリートの運命」	

1．著者名 多賀太	4．発行年 2018年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 296
3．書名 「「ジェンダーと教育」研究の新展開―不平等の多元化と視点の多様化のなかで―」日本教育社会学会編，稲垣恭子・内田良責任編集『教育社会学のフロンティア２ 変容する社会と教育のゆくえ』 145-165頁	

1．著者名 目黒強	4．発行年 2019年
2．出版社 和書院泉	5．総ページ数 351
3．書名 『〈児童文学〉の成立と課外読み物の時代』	

1．著者名 竹内洋	4．発行年 2017年
2．出版社 翰林書房	5．総ページ数 832
3．書名 『夏目漱石辞典』（分担執筆）　「教育」「大学予備門」「第一高等学校」「東京帝国大学」	

１．著者名 竹内洋	４．発行年 2017年
２．出版社 中公文庫	５．総ページ数 272
３．書名 著書（解説）　「樗陰と茂雄　すぎし世の編集者像」　杉森久英『滝田樗陰』	

１．著者名 Taga, Futoshi,	４．発行年 2017年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 284
３．書名 “Dilemma of Fatherhood: The meaning of work, family, and happiness for salaried male Japanese workers,” Barbara Holthus and Wolfram Manzenreiter eds., Life Course, Happiness and Well-being in Japan　pp.175-186	

１．著者名 竹内洋	４．発行年 2018年
２．出版社 筑摩 書房	５．総ページ数 224
３．書名 「日本型教養主義の来歴（大沢聡との対談）」『教養主義のリハビリテーション』　２０１８年５月	

１．著者名 竹内洋	４．発行年 2018年
２．出版社 角川ソフィア文庫	５．総ページ数 448
３．書名 「解説」猪木正道『共産主義の系譜』　２０１８年９月	

１．著者名 竹内洋	４．発行年 2018年
２．出版社 筑摩書房　２０１８年９月	５．総ページ数 450
３．書名 『教養派知識人の運命　阿部次郎とその時代』著書（単著）	

１．著者名 稲垣恭子	４．発行年 2018年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 896
３．書名 「教育社会学と知のパラダイム」日本教育社会学会編『教育社会学事典』	

１．著者名 太田拓紀	４．発行年 2018年
２．出版社 協同出版	５．総ページ数 272
３．書名 「教師文化と学校」稲垣恭子・岩井八郎・佐藤卓己編著『教職　教養講座第12巻　社会と教育』，pp.43-60.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

稲垣恭子「(本棚から一冊)　小手先の改革よりビジョンを」(小松光、ジェルミー・ラブリー『日本の教育はダメじゃない』ちくま書房)『電気新聞』2021.4.2
「(本棚から一冊)　構造的弱点克服へ組織改革を」(青木栄一『文部科学省』中公新書)『電気新聞』2021.8.13
「(本棚から一冊)　倫理的消費を自然体で捉える」(橋本努『ロスト欲望社会』勁草書房)『電気新聞』2021.12.3

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	濱　貴子 (HAMA Takako) (10711616)	富山県立大学・工学部・講師 (23201)	
研究分担者	太田　拓紀 (OTA Hiroki) (30555298)	滋賀大学・教育学部・准教授 (14201)	
研究分担者	竹内　洋 (TAKEUCHI Yoh) (70067677)	関西大学・東西学術研究所・客員研究員 (34416)	
研究分担者	多賀　太 (TAGA Futoshi) (70284461)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
研究分担者	目黒　強 (MEGURO Tsuyoshi) (70346229)	神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授 (14501)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関